

コロナ禍に負けず「第40回久慈地区乾しいたけ品評会」が開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、日本椎茸農業協同組合連合会主催の全国乾椎茸品評会や岩手県乾しいたけ品評会が中止となる中、県内最大の乾しいたけ生産地の久慈地区では、久慈地方林業振興協議会（会長：遠藤譲一久慈市長）主催の「久慈地区乾しいたけ品評会」が、感染症の拡大防止に配慮したうえで開催されました。

1 審査会

今年は、しいたけの発生期の4月に十分な降雨があったことや、気温が比較的低温で推移したことから、例年を上回る発生量が期待されていました。一方で、生産者が目標としていた全国品評会が中止となったため、出品数の大幅な減少が懸念されましたが、前年度の出品数を大きく下回ることなく79点の出品があり、改めて生産者の熱意が感じられたところです。

6月29日の審査会では、感染症拡大対策に配慮し、審査員はマスク着用での審査となりました。出品総数の約6割を占める茶花どんこの審査では、傘の亀裂の色沢や亀裂の花模様の形状等、甲乙つけ難い出品が多く、比較審査において、審査員を大いに悩ませました。

2 褒賞伝達式

例年開催している褒賞授与式を伝達式として縮小開催することとなり、7月7日に洋野町種市庁舎を会場に、関係者のみで行いました。

伝達式では、5部門のうち2部門（天白どんこの部、こうこの部）で優秀賞を受賞した洋野町の毛糠敏昭氏に、最優秀賞に相当する久慈地方しいたけ産業振興協議会長賞の賞状が手渡されました。毛糠氏は、「しいたけの生産をお

よそ40年続けてきた。今後も良いものを作っていくので、価格が上がってくれるのを期待したい。」と今後の期待を話していました。



2部門で毛糠敏昭氏（洋野町）が優秀賞を受賞

毛糠氏のほかの優秀賞受賞者は、茶花どんこの部が馬場勝美氏（洋野町）、どんこの部が熊谷有耕氏（普代村）、こうしの部が上小路鉄也氏（洋野町）となりました。

3 おわりに

生産者の技術研鑽に取り組む真摯な姿勢や、熱意に応えられるよう、今後も関係機関、関係団体と一体となって、生産振興に取り組んでいきます。また、来年度は、全国品評会において、例年以上の上位入賞により、品質の高い「久慈地方産乾しいたけ」の発信が期待されるところです。



優秀賞を受賞した毛糠敏昭氏出品の「こうこ」